

県民の 8 割が説明不十分と認識！

WE LOVE  
KOUBARU!

# 中村長崎県知事は人権侵害の 石木ダム建設を即刻中止せよ！

長崎県は工事を中止し、話し合いのテーブルに着け！

長崎県が川棚町で進める石木ダム建設事業。  
2016年7月に長崎県は付替道路工事を再開し、  
水没予定地13世帯全ての家屋を強制収用して、  
建設を強行しようとしています。



それに対して水没予定地・川原地区住民は体  
を張って付替道路工事を阻止しています。

2017年8月には住民からの抗議を受け、長崎県はいったん工事を中断し、その月、2回住民と協議しました。しかし、住民が求める県知事との交渉及びその間の工事中断を長崎県が拒否し、協議は決裂し、工事を再開しました。現在、住民・支援者は座り込みによる工事阻止活動を一日中続けています。そもそもこのような状況になったのは住民への説明責任を放棄し、工事を強行する長崎県のせいです。長崎県は工事を中止し、住民との話し合いのテーブルに着くべきです。

## 県民の理解も賛同も得ていない石木ダム事業



長崎県は、目的の失われたダム建設にこれ以上の税金を投入すべきではありません。2017年6月に発表された民間会社のアンケート調査結果では県民の8割近く(79.3%)が石木ダム計画についての説明は不十分と感じ、「建設反対」は27.5%、「分からない」が50.6%、「賛成」は21.9%にしか過ぎず、反対が賛成を上回っています。水没予定地住民の生活を破壊し、県民の理解も賛同も得ていない事業は止めるべきです。

中村法道知事は人権侵害の石木ダム建設を即刻中止すべきです！

発行元：石木ダム建設に反対する川棚町民の会

東彼杵郡川棚町岩屋郷 903 炭谷方 TEL:090-4519-2528 炭谷

# ダム建設に湧き起こる疑問の声・・・川棚町、長崎市



川棚町内では 2017 年 1 月から 11 月まで計 11 回の学習会が行われてきました。川原地区住民や佐世保市民らこの問題の当事者が講師となって、ダムの問題を川棚町民に説明しました。治水・利水面からダムは必要ないこと、熊本の球磨川流域でダムが建設されたことによって、

水質汚濁、漁獲高減少、水害や振動騒音などの問題が引き起こされたことなど講師が説明しました。また水没予定地・川原住民は、一人でも多くの人が付替道路工事の座り込み阻止活動に参加して欲しいと訴えました。学習会に参加した町民は、合計 227 名(重複あり)。参加者からは「石木ダムは必要ない」「講師の説明は分かりやすかった。こういう学習会をどこでもやっていく必要を感じる」「川棚の問題なのに、町内での議論が低調。今回のような取り組みによって町民が関心を持ち議論が深まればよい」「佐世保市民もダムは要らないという人が圧倒的に多い」という意見や感想が出されました。2018 年には学習会活動の集大成とも言える集会とデモが予定されています。



2017 年 12 月 9 日には、長崎市内で約 80 名が参加した学習会が開催されました。講師陣の気合の入った説明に、参加者からは「とても分かりやすい」「深い理解が出来た」「県のやり方に怒りを覚える」「もっと学習会を開いて欲しい」という感想が出されました。県



庁所在地でこれだけの人に関心を示したということは長崎県にもかなりのインパクトを与えたと思います。川棚町・長崎市いずれも学習会は今後も継続して行われる予定です。また県内各地で学習会は行われており、石木ダムに対する県民の疑問は大きくなるばかりです。